



ミライマバリDXプラン —今治市デジタル未来戦略—

基本戦略フレーム

2022年8月

今治市未来デジタル課

<ネーミングについて>

『ミライマバリ』 ……ミライ mirai+imabariイマバリの造語

DXは目的ではなくあくまで手段であり、考えるべきは今治の未来です。
その未来に向けて考えていく姿勢を、
シンプルに分かりやすい言葉で表現しました。

「i=市民」を“今治“の”未来“を描く際の真ん中に据えて、
取組み姿勢とアクションを体現できる想いを込めました。



<デザインについて>

『未来に開かれた扉』

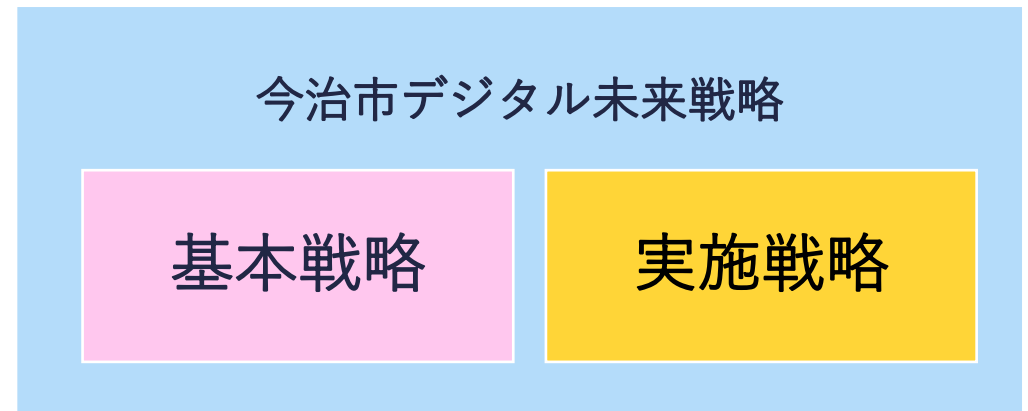
DX化はあくまでも人が主役です。
そこで真ん中に「i(愛とハート)」を置き、
オープンマインドで『未来に開かれた扉』をイメージしました。
カラーリングは市民性を意識して、元気であたたかな色をチョイス。
8ビットのデジタル表現で、懐かしさと新しさを表現。
幅広い層に受け入れてもらいやすい、レトロポップなデザインです。

今治市未来デジタル戦略の位置づけ

市民生活の質を高め、市民満足度の向上を図るため、行政分野における「スマート自治体への転換」と、市民生活、まちづくりなどの各分野における地域課題の解決に向けた「地域社会のDX推進」に一体的に取り組む、「スマートシティの実現」を目指して、今治市のデジタル化・DXの指針となる戦略を策定するものです。

策定にあたっては、市民アンケート等により今治市の課題やニーズを分析すると同時に、市職員によるプロジェクトチームの意見を反映させた「**当事者参画型デジタル未来戦略**」を目指します。

今治市デジタル未来戦略は、趣旨及び目的、基本理念、基本方針等の全体像を定める「**基本戦略**」と、基本戦略に基づき、各分野のビジョン実現に向けた具体的な取り組み方針を定める「**実施戦略**」により構成されます。



* DX：デジタルトランスフォーメーションの略。日本語では「デジタル革新」などと訳される。デジタル技術を用いてよりよい変革をもたらすこと。

今治市デジタル未来戦略の策定方針

当事者参画型のデジタル未来戦略を策定するにあたり、当事者である市民の意見を活かし、今治ならではの課題を今治らしいDXで解決するために、まずは市民アンケートや事業者インタビューなどを実施し、あわせて過去の調査などの結果を再分析して、課題の把握に努めました。

事業者インタビュー

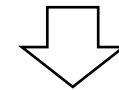
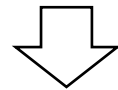
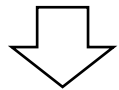
- 令和3年9月～11月実施
- 市内民間事業者、金融機関、教育機関等の12団体へデジタル化についてのインタビューを実施

市民アンケート

- 令和3年11月～12月実施
- デジタル化に関する市民アンケートを16歳以上の市民を対象に、郵送2,000件+インターネットで実施
- 回答数926件（郵送477件、インターネット経由449件）

その他過去の調査など

- 第2次今治市総合計画後期基本計画策定に係る市民アンケート
実施時期：令和元年7月24日～8月19日
- 第2次今治市総合計画後期基本計画策定に係る高校生アンケート
実施時期：令和元年7月1日～7月19日
- 今治市職員意識調査
実施時期：令和2年7月8日～7月27日
- 民間企業による調査



デジタル未来推進プロジェクトチーム（今治市職員）

- 「市民生活」「まちづくり」「行政」の3つの分科会に分かれて、10年後の未来を見据えたデジタル技術の活用方法について検討
- インタビュー及びアンケートの結果をインプットした上で、今治市が取り組むデジタル化・DXの基本理念、取組方針、目指すべき姿を検討

アンケート調査の結果及び各種の調査結果から、次のような今治市の特徴が浮かび上がりました。

今治市の課題

① ソーシャルキャピタル*の形成

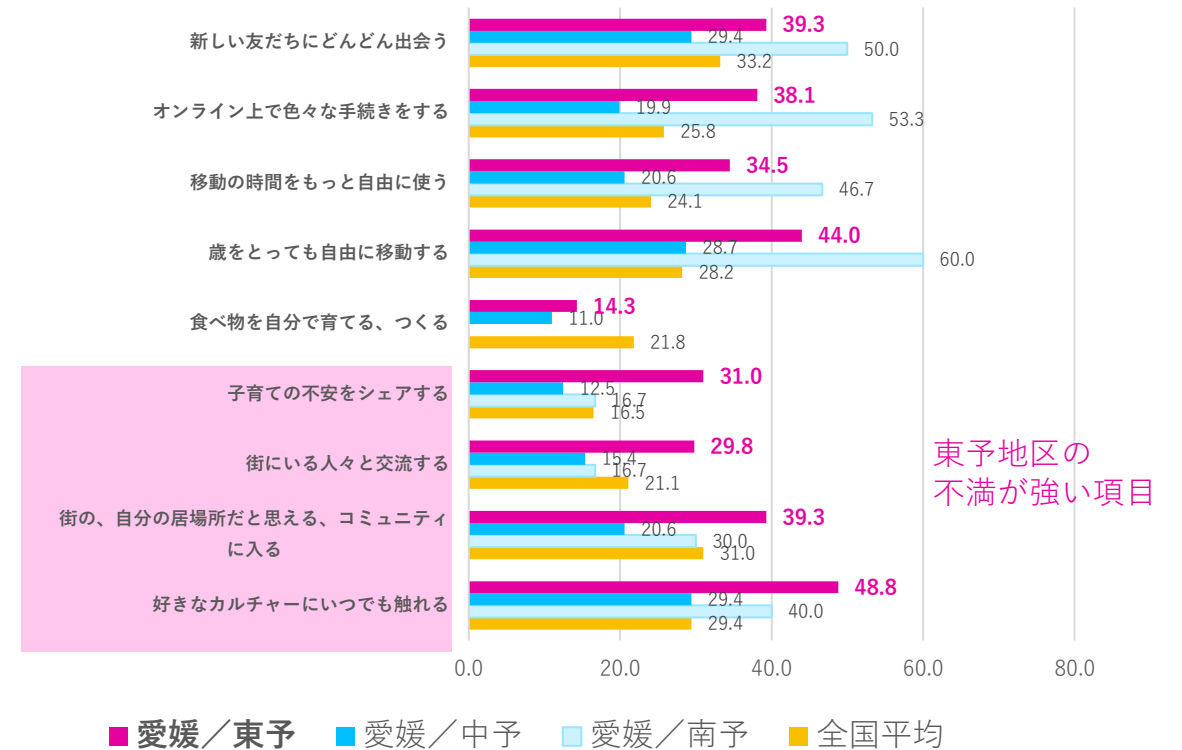
東予地区全体の傾向として、地域社会の中で居場所がないことに対する不満がみられます。こうした不満は、全国平均だけでなく、同じ県内の南予地区と比較しても高くなっています。

今回調査でも、市内の人材に交流や連携のなさが指摘されました。こうしたつながり、人的ネットワークの持つ価値、すなわちソーシャルキャピタルの形成が今治市の固有課題と考えられます。

* ソーシャルキャピタル：信頼関係、規範、相互扶助、人的ネットワークなど、人と人や組織などとのつながりを、資本・資源としてとらえた概念。「社会関係資本」「人間関係資本」ともいう。

Q.居住する市町村に不満がありますか？

居住する市区町村への不満（％）



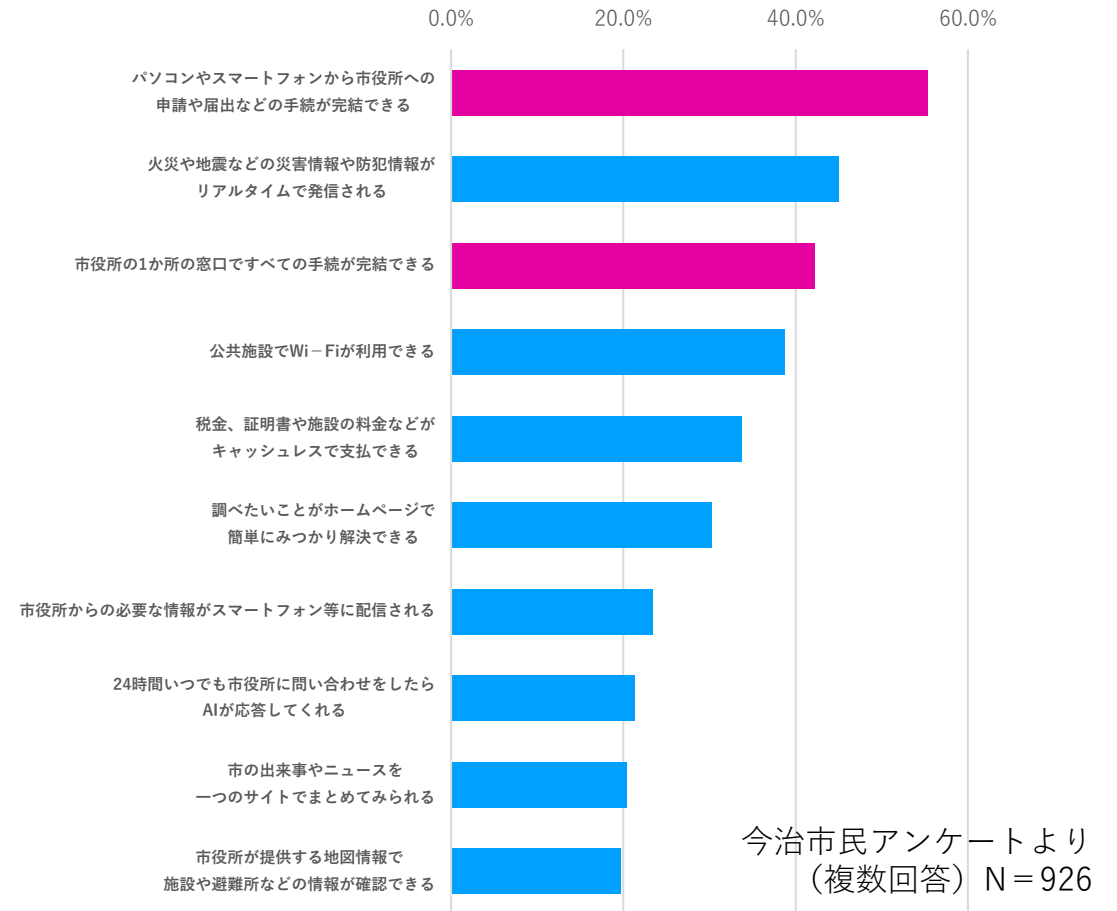
東予地区の
不満が強い項目

②行政事務プロセス自体の 整流化・部署間連携

自宅からオンラインで手続きを完結させたいというニーズは非常に強く、早期に実現すべき課題です。

一つの窓口で同時に手続きを完結させたいというニーズもあります。これを実現するためには、単にICTを導入を進めるのではなく、**行政事務プロセス自体の整流化**と、その実現に向けた**部署間の連携**が求められます。

Q.今治市役所に実現してほしい 行政サービスは？

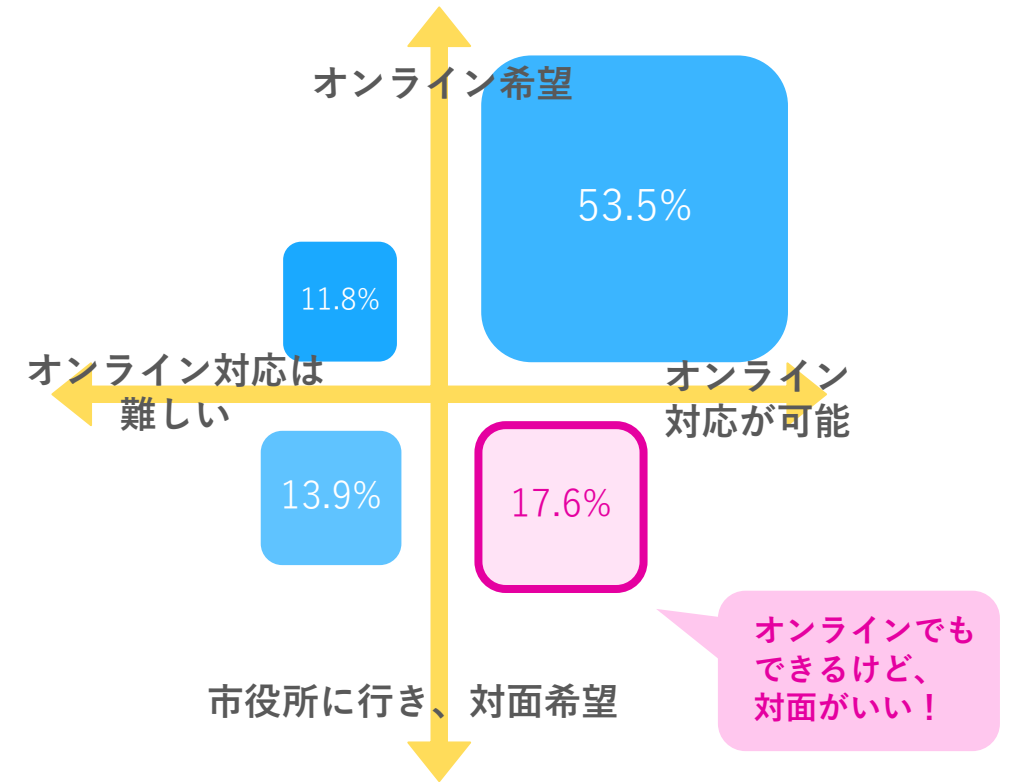


③利便性＋人と人の関係性強化 あたたかみを持ったDXの推進

パソコン・スマートフォンでさまざまなサービスを利用したいという希望が強い一方で、調査に対しては「オンライン対応が可能である」と答えたITリテラシーの高い方の中にも、窓口での対応を求める声が一定数あります。

つまり、重要な相談にはデジタルであれアナログであれ、**親しみや関係性**を求められています。利便性は実現させながらも、**あたたかみのあるDXの推進**が望まれます。

Q.パソコン・スマートフォンでさまざまな行政サービスを利用したいですか？



今治市民アンケートより
(複数回答) N=703

分析結果を踏まえた基本理念

今治市のこれからの必要なこと＝ソーシャルキャピタルの形成

関係者のネットワークを構築し、当事者間の理解を深めることを通じて、シビックプライドを醸成します。

「同時代の空気、としてのデジタル化」を活かす

デジタルはあくまでツールでありきっかけです。

デジタルをきっかけに、かつて動かなかったものも一気に動かす時代が到来しています。

DX化を市民連携のきっかけに

今治市の未来を当事者同士でオープンに話し合える場をつくります。

そこでの話し合いの結果を、施策に反映していきます。

基本理念を実現するために、3つの方法を採用します。

①「コンソーシアム型形式」

- ・新しく参画したい企業・組織を否定せず
「仲間づくり」に配慮した活動
- ・新しい今治市を考えるためのコミュニティをデザイン

②「アジャイル型・非施設依存形式」

- ・計画を立ててその通りに履行して行くのではなく、
勉強会・プロトタイプを重ねながら改良していく

③「活動過程の広報」（プロセスブランディング）

- ・経過を見せることで、仲間づくりのスピードを速める

デジタル未来戦略の基本方針

<コンセプト>
人に寄り添う日本—アナログなDX

デジタル・アナログにこだわるのではなく、
住民対応のクオリティを上げ、人と人とのつながりを
より大切にするための手段としてDXを活用します。

行政のDX

<実行方針>
「市民が真ん中」になる活動
時間を生み出す「しない」DX

「市民が真ん中」の視点で
市民や企業の主体的な参加を求めます。
やめるべきことをやめ、やるべきことを高度化します。

市民生活のDX

<実行成果>
誰もが住み続けたい「心地良さ」「便利」
間接指標＝シビックプライドを示す居住・居住推奨意向の向上

市役所から先端的なDX行政を取り入れ、
この発想があったかという
みんなに見せたいDX行政のミュージアムを目指します。

まちづくりのDX

デジタル化に取り組む 3 × 9 の分野と基本方針

行政のDX	「市民が真ん中」の視点で 超スマート自治体へ体質変革	住民サービスのDX	時間や場所にとらわれずワンストップでサービスが受けられる手のひら市役所
		情報発信のDX	クロスメディアによる情報発信とプッシュ型で最適な情報提供
		業務改革のDX	業務のデジタル化による生産性向上とスマートな行政運営
		働き方のDX	時間や場所にとられない生産性の高い新しい働き方への転換
		データ連携のDX	たとえばマイナンバーによる統合IDの実現などデータ連携プラットフォームの構築
		データ活用のDX	オープンデータの活用による官民サービスの高度化
		通信環境のDX	DXの基盤となる利用しやすい情報通信環境の整備
		DX人材の育成	スマート自治体の実現に向けたDX人材の育成
		DX推進のためのセキュリティ対策	DXによる利便性の向上とセキュリティ確保の両立
市民生活のDX	デジタルで「ひとりひとり」が 輝く今治をみんなで創出	コミュニティのDX	ICTを活用した新しくも懐かしいコミュニティづくり
		健康・医療・介護のDX	デジタルが支える健康といつまでも自分らしい暮らし
		子育てのDX	子どもを守り育てICTネウボラによる切れ目のない支援
		モビリティのDX	どこへでも「行ける」「届く」暮らしを中心にしたモビリティサービスの充実
		教育のDX	ICTで「誰もが」「いつでも」「どこからでも」自分らしく学べる教育環境の整備
		環境・エネルギーのDX	デジタル技術で豊かな自然環境を次世代につなぐ
		文化・スポーツのDX	バーチャルでつなぐ今治と世界の文化・スポーツ
		社会参加のDX	デジタルで支え合うインクルーシブ社会の実現
		デジタルデバイド対策	誰一人取り残されないデジタル社会の実現
まちづくりのDX	デジタルで市民の命を守り 「商いができる」今治の実現	産業のDX	デジタルによる産業のイノベーションとDX人材の育成
		商流のDX	今治の「いいもの」を世界に広げるデジタルマーケティングとバーチャル商店街
		人流のDX	デジタルを活用したリアルなにぎわい拠点づくり
		空間距離のDX	しまなみ海道「ゼロ距離」生活の実現
		インフラのDX	デジタルを活用したスマートなインフラ投資とインフラのデータ化
		観光のDX	デジタルとリアルな相乗効果で観光力をグレードアップ
		移住のDX	心地よく「住む」リモートで「働く」日常がワーケーションな移住先進地
		農林水産業のDX	農林水産業のスマート化による安定した生産と就業者の確保
		防災・安全のDX	デジタルを活用した防災力強化と安全対策

計画期間：令和5年度から令和9年度まで

デジタルの分野は変化が大きいため、詳細なロードマップを定めるのではなく、大まかな方向性と目標を決めて、新しい技術や時代の流れに柔軟に対応します。

